



# 決算説明補足資料

株式会社ラクト・ジャパン

—2019年11月期 第3四半期—

# 目次

---

1. 連結業績概要 P. 2
2. 事業別売上高および販売数量推移 P. 3
3. 連結貸借対照表 P. 4

## ■ 参考資料

- ・ 当社の為替リスクと会計上の表示について
- ・ 売買取引のイメージ（為替の影響）

# 1. 連結業績概要



(財務数値の表示は端数切り捨て 単位：百万円)

	2018年 11月期 3Q	2019年11月期 3Q			2019年 11月期  年間予想
		実績	対前年 同四半期比 増減額	対前年 同四半期比 増減率(%)	
連結売上高	87,943	87,536	△406	△0.5	125,200
経常利益	1,924	2,086	162	8.4	2,800
売上高経常利益率(%)	2.2	2.4	0.2	-	2.2
(経常利益に含まれる為替影響額※1)	(△161)	(△26)	(134)	-	-
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	1,291	1,490	198	15.4	1,930
売上高当期純利益率(%)	1.5	1.7	0.2	-	1.5
1株当たり四半期 (当期)純利益(円)	131.96 <sub>※2</sub>	151.94 <sub>※2</sub>	19.98		196.75 <sub>※2</sub>
為替レート(円/USD)	109.73	109.71	△0.02		-
為替レート(円/EURO)	131.34	123.73	△7.61		-

※1 経常利益に含まれる為替影響額：当社は外貨為替会計処理基準における原則法を採用しているため、為替ヘッジの影響が売上原価と営業外損益の両方に計上されます。そのため売上原価と営業外損益両方に対する為替ヘッジの影響額を記載しております(詳細はP5以降の参考資料をご覧ください。)

※2 当社は、2019年5月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

## 2. 事業別売上高および販売数量推移

### 事業別売上高

(単位：百万円)

	2018年11月期				2019年11月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	年間予想
乳原料・チーズ	21,972	21,839	21,856	19,621	21,109	21,566	22,119	92,270
食肉加工品	3,337	3,279	2,990	2,969	2,941	3,162	3,187	15,320
アジア-乳原料販売	3,436	3,866	3,128	4,147	2,992	4,310	3,709	14,330
アジア-チーズ製造販売	499	498	554	564	658	626	679	2,380
その他	216	218	248	195	183	160	128	900
売上高合計	29,461	29,703	28,778	27,497	27,886	29,826	29,823	125,200

### 事業別販売数量

(単位：MT)

	2018年11月期				2019年11月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	年間予想
乳原料・チーズ	53,509	50,658	50,149	44,127	49,784	50,354	52,814	209,320
食肉加工品	5,789	5,576	5,138	5,090	4,985	5,525	5,806	26,260
アジア-乳原料販売	11,977	14,454	11,977	14,412	11,298	16,593	13,853	54,700
アジア-チーズ製造販売	643	646	660	718	874	930	928	3,100

(数値の表示は端数切り捨て)

# 3. 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2018年11月末	2019年8月末	増減額
<b>流動資産</b>	<b>46,337</b>	<b>49,987</b>	<b>3,650</b>
現金及び預金	4,929	5,418	488
受取手形及び売掛金	15,873	19,888	4,015
棚卸資産	25,216	24,284	△931
流動資産その他	318	395	77
<b>固定資産</b>	<b>2,630</b>	<b>2,314</b>	<b>△315</b>
有形固定資産	597	468	△128
無形固定資産	39	32	△7
投資その他の資産	1,994	1,813	△180
<b>※ 資産合計</b>	<b>48,967</b>	<b>52,302</b>	<b>3,334</b>
買掛金	11,173	10,551	△622
有利子負債	20,948	24,761	3,812
負債その他	2,413	1,971	△441
<b>※ 負債合計</b>	<b>34,536</b>	<b>37,285</b>	<b>2,748</b>
<b>純資産</b>	<b>14,431</b>	<b>15,016</b>	<b>585</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>48,967</b>	<b>52,302</b>	<b>3,334</b>

## ■ 主な増減要因

### － 受取手形及び売掛金の増加

第3四半期末（8月末日）が休日だったことにより、売掛金の回収が一部翌期にずれの影響。

### － 有利子負債の増加

上記理由により運転資金が一時的に増加。

※「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号平成30年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(財務数値の表示は端数切捨て、内訳は主要項目のみ記載)

**参考資料：為替関連**

## ■ 当社は基本的に為替リスクを負わないビジネスモデル。

海外仕入先との外貨建て仕入契約締結と同時に、国内顧客と円貨の販売契約締結。  
その際、仕入外貨額に対する為替予約をすることで為替リスクをヘッジしている。

但し、当社は会計処理基準における原則法を採用しているため、会計上の表示が特徴的。

1. 売上総利益と営業外損益（為替差損益）の表示に常に影響。
2. 決算期末をまたぐ取引（翌期以降に販売）は期間損益の表示に影響が発生。

## ■ 表示の特徴

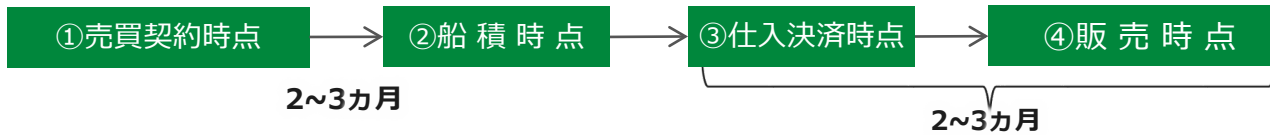
取引の段階に応じて、計上に使用する為替レートが異なるため、  
取引の途中段階において、為替差損益が生じる。

最終的には当初の為替レートにより計上された売上・売上原価になるので実質的な利益に  
影響はないが、売上計上前の取引の途中段階においては

- ① 売上総利益と営業外損益の表示に影響するほか、
- ② 計上が期間をまたがることにより、期間損益に影響する。

# 売買取引のイメージ（為替の影響）

為替レートが変動しても、実質的な利益には影響しない。



処理

- 為替予約（①時点レート）
  - ※同時期に行う処理
  - 仕入先と外貨建て契約
  - 販売先と円建て契約
  - = 実質的な利益確定
- 仕入計上 = 実勢為替レート（②時点レート）
- ①と②時点の為替変動差を為替差損益として計上
- 売上計上（①時点で契約した円建金額）

**取引終了時(④まで終了)**  
 ④の販売まで終了した時点では、①～④時点の処理が通算され、①時点の実質的利益及び実質的原価と同額が会計上も計上される。

**取引が途中で決算をむかえた場合**  
 ③時点と④時点の間に期末をむかえた場合、先行して、為替差損益(営業外)が計上される。

為替レート変動なし



円安

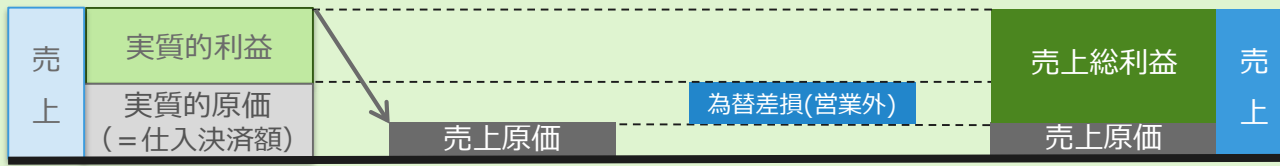
為替レート円安



③時点では為替差益が営業外利益として先行して計上。  
 →①時点の為替予約の金額より、②時点の仕入価格が高くなるため

円高

為替レート円高



③時点では為替差損が営業外損失として先行して計上。  
 →①時点の為替予約の金額より、②時点の仕入価格が安くなるため